

PROFILE

■井上憲司（シタール）

シタールとの出会いは1982年のインド旅行中。

1987年、カルカッタ在住のシュリ・ディジェンドラ・モハン・ベナルジー氏に師事。

滞在中に出演したコンサートが現地のマスコミに高い評価を受け、

以後10年余り、年間約半分を師のもとで過ごし、現在も毎年精力的にコンサートやレコーディングを行っている。

自身のオリジナル音楽では、90年代から自らのグループ「JAZICO」や「FOOJEAN」を率いる他、多彩なジャンルの音楽家、ダンサー、クリエイターとのコラボレーションも数多く、作曲や編曲を様々な分野に提供し、独自の音楽の可能性を追求し続けている。

CD『水琴窟とタンプーラ』、『JAZICAL WORLD』、『FOOJEAN』があり、

2008年に北インド古典音楽のアルバム第一弾「KIRWANI」、2009年にJAZICOの2枚目のアルバム「LIVE AND THEN/ JAZICO at 音や金時」リリース。神奈川県逗子市在住。

■逆瀬川健治（タブラ）

1956年東京生れ。1977年 インド、ネパールの旅でタブラに遭遇。

即興音楽の活動をしていた「ヒカシュー」に参加し、ライブ活動、映像の音楽制作で色々な楽器を独自の奏法で演奏。

1978年より、インドのカルカッタに於いてタブラの巨匠、バンディット・マハプルシュ・ミシュラ氏に師事。北インド古典音楽のターラ理論（リズム理論）の基礎を学ぶ。ブラック・ダッタ氏に師事。

1981年、帰国後、北インド古典音楽をはじめ、ジャンルを超えた演奏活動を展開し日本各地、インド、台湾、香港にて、国内外の音楽家と共演。

2001年 様々なジャンルのミュージシャンの参加により、オリジナル曲による初リーダーアルバム『にぎみたま』を発表。

■小松崎健（ハンマーダルシマー）

駒沢大学ブルーグラス研究会でバンジョーを弾き始める。

1986年、アメリカのフォークシンガー、デビットホルトの弾くハンマーダルシマーをビデオで見て、衝撃を受ける。

1988年、ケルティックアンサンブルグループ「HARD TO FIND」を結成。自主レーベルから8枚のオリジナルアルバム、徳間ジャパンから2枚のオムニバスアルバムを発表。

昨年20周年を迎える。

アジアの楽曲を中心に演奏するユニット「SACRA」、あがた森魚、関ひとし、坂元昭二ほか多くのアーティストのCDアルバムに参加。

中川ヒデアキ（タブラ）とのユニット「NADA Collaboration」、長崎亜希子（クラリネット）とのクレッツマーデュオ「Birobidzhan〜ピロビジャン」など、ジャンルを超えたコラボレーションを展開している。

■中川ヒデアキ（タブラ）

1979～80年、北インド、ウッター・プラディッシュ州の古都バラナシにて、

バラナシ・ヒンドゥー大学ミュージックミッション講師Dr.バンディット・チョテラル・ミシュラ氏に師事。北インド古典音楽理論及び、ペナレス学派の伝統タブラ奏法を学ぶ。

帰国後、北海道を拠点に国内外のインド音楽奏者と共演。

古典音楽を中心に様々なジャンルの演奏家、舞踏家、詩人等とのセッションに参加。

2011年9月15日逝去